

[2011年1月19日 京都新聞より](#)

希少種カスミサンショウウオ 生息環境を守る学習会 長浜で22日

長浜市の南端に生息する希少種のカスミサンショウウオを中心にした動植物の生息環境を守る「田村山生き物ネットワーク」は22日、初めての学習会「カスミサンショウウオを守ろう!!」を、同市田村町の長浜バイオ大で開く。

ネットワークは昨年11月に発足。地域住民に希少種の生き物が生息していることを知ってもらうとともに、関心を持つ人の理解を深め賛同の輪を広げるため学習会を企画した。

当日は午前10時～11時45分まで開催。長浜南小の水生物クラブの児童代表がカスミサンショウウオの調査を報告した後、同ネットワーク会長で同大学の齊藤修教授の研究室学生が生態や遺伝子などを説明する。

岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」展示飼育部の田上正隆主任が県内でのカスミサンショウウオ保護活動を紹介。県立大の仁連孝昭副学長が田村山の生き物を核としたまちづくりについて話をする。

[2011年1月15日 近江毎夕新聞より](#)

22日に学習会

長浜市の田村山周辺に生息する絶滅危惧種「カスミサンショウウオ」の保全に取り組む「田村山生き物ネットワーク」(会長=齊藤修・長浜バイオ大学教授)は22日午前10時から、市内田村町の長浜バイオ大でカスミサンショウウオの生態を学ぶ学習会を開く。

齊藤教授のほか、長浜南小学校の水生物クラブや、岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふの田上正隆さんらが講演、研究報告する。事前申し込み不要。無料。

[2010年12月15日 読売新聞](#)

絶滅危惧 カスミサンショウウオ 保護へ地域ネット発足 長浜バイオ大教授ら

長浜市南部の田村山に生息する両生類「カスミサンショウウオ」を守ろうと、長浜バイオ大の齊藤修教授(51)(分子生物学)が市や市教委、自治会代表者、他の大学教授らに呼び掛け、「田村山生き物ネットワーク」(約20人)を発足させた。市環境保全課も名を連ねており、同ネットワークでの議論を環境保全施策に反映させる方針。齊藤教授は「保護には地域の理解と協力が必要だ。地元に貴重な生き物が生息していることを知らせ、地域全体で守っていく体制を作りたい」と意気込んでいる。

カスミサンショウウオは体長10センチ程度の小さな灰褐色のサンショウウオで、尾の中央に黄色い筋の模様がある。毎年2月頃に産卵し、20年以上生きるとされるが、詳しい生態は分かっていないという。環境省のレッドリストでは、絶滅の危険が増大しているとされる「絶滅危惧 類」に指定。西日本の丘陵地の一部に生息し、県内南部でも確認されている。

齊藤教授は5年前、田村山の水路でカスミサンショウウオの卵を見つけた。孵化した幼生の観察を続けてきたが、昨秋に湧き水が枯れたために全滅。「保護は待ったなし」と危機感を強めたという。

今年に入って、学生たちと一緒に本格調査に乗り出し、2、3月に卵約120個を新たに発見した。卵は4月中旬にほぼ全てが孵化し、7月にはこの卵から生まれたとみられる276匹が、水路で確認されたという。

齊藤教授は地元の住民や自治会、学校などに協力を呼び掛け、同ネットワークの設立が決まった。地元の市立長浜南小の水生物クラブが水路の水質調査をする予定で、長浜バイオ大でも今後、遺伝子解析や生態調査などに取り組み、来年1月に報告会を行うことにしている。

[2010年12月8日 京都新聞より](#)

生き物ネット設立 希少種守れ 長浜・田村山周辺住民ら

長浜市南端の田村山(138メートル)で、希少種のカスミサンショウウオを中心に動植物の生息環境を守る活動を行う団体「田村山生き物ネットワーク」をこのほど、市民らが設立し、環境保全の必要性を訴えている。

会長を務める長浜バイオ大の齊藤修教授(分子生物学)が、田村山の限られた場所でカスミサンショウウオの多数の卵を偶然に見つけたのが、ネットワーク設立のきっかけ。

齊藤教授は昨年、湧水でふ化した幼生が全滅したのを確認。猛暑の今夏は農家の協力でタンクで水を運んで守ったが、「放置すれば希少種が死滅する」として、住民らに呼びかけて11月にネットワークを設立した。

田村山の周囲の自治会長や地域づくり協議会長、同大学学長や県立大副学長、住民有志らで構成。今後、地域住

民や児童らが一体となり、動植物の生息環境の保護に取り組む計画で、来年 1 月には調査報告会を開く準備を進めている。

北川貢造副会長は「手をこまねいていると貴重な生物がいなくなる。生物を守り、自然と一体となった地域づくりを進めたい」と話す。

[2010年12月8日 毎日新聞より](#)

絶滅危惧種・カスミサンショウウオ 田村山で276匹確認 バイオ大調査

絶滅が危惧されているカスミサンショウウオの生息が長浜市田村町の田村山（標高 138メートル）で確認され、地元住民や大学関係者らが、「田村山生き物ネットワーク」を発足させた。メンバーは今後会合を重ね、保存活動を進める。

カスミサンショウウオは環境省レッドリストの絶滅危惧 類で、県リストでも3番目に絶滅が危惧される希少種。体長9~13センチ。丘陵林などに生息し、わき水や水田環境を好む。

田村山では、04,05年の調査で、ふもとの水路で卵が見つかり、その後確認されなかったが、長浜バイオ大バイオサイエンス学部の齊藤修教授（同ネットワーク会長）の研究グループが今年2~3月、約100個の卵のうを発見。3~4月にふ化し、7月末の最終調査で276匹を確認したという。

同ネットワークは地元の田村町、寺田町の自治会役員や近隣住民代表、同市職員らで構成。齊藤教授は「生存率5%で276匹も確認できた。生息できる環境の保全に取り組みたい」と話している。

[2010年12月7日 中日新聞より](#)

カスミサンショウウオ 保護へ「ネットワーク」 バイオ大、住民ら設立

長浜市の田村山（137メートル）周辺に生息する希少種「カスミサンショウウオ」を守ろうと、長浜バイオ大の齊藤修教授（51）や地域住民ら20人ほどが保護グループ「田村山生き物ネットワーク」を設立した。バイオ大をはじめ教育機関や住民らが共同で保護活動に取り組む。

5年ほど前、齊藤教授が田村山周辺を散策中、水路でカスミサンショウウオの卵を発見。以来、学生らと生態を調査している。昨年春先に晴天が続き、水路の水量が激減し、ふ化した幼生が全滅した。今年に入り、生態の存在を確認したが、生育環境の悪化が懸念される状況にあったことから住民らに協力を呼び掛け11月24日にネットワークを発足させた。

今年は2~3月に水とでバナナ状の卵のう約120個を発見、4月12日までにふ化を確認した。約5400匹がかえったとみられる。7月28日時点で、もうじき成体になる亜成体276匹を確認。保護のため一部を大学に移して飼育している。

グループでは、生息環境の整備に取り組むほか、来年1月に調査結果報告会を開く。近くの南小学校も協力し、水生生物クラブの児童14人が今月中旬から飼育を始める。

齊藤教授は「貴重な生物を守り、自然と一体となった地域づくりを大学と小学生、地元住民が手を携えて、地道に進めていきたい」と話している。

[2010年12月7日 近江毎夕新聞](#)

田村山の希少生物保全へ バイオ大教授らが連絡会議設立

長浜市の田村山の山裾に生息する希少種「カスミサンショウウオ」の保護活動を地元住民とともに取り組み、自然と人の共生を考えようと、長浜バイオ大学の齊藤修（おさむ）教授らの呼びかけで、大学の学長、副学長、田村山周辺自治会役員ら17人がこのほど「田村山生き物ネットワーク 南長浜田村山周辺の自然と人々の共生を目指す連絡会議」を設立した。

来年1月に地元自治会などで調査結果報告会を開き、カスミサンショウウオを通して、自然環境保全と暮らしのあり方を語り合う。

カスミサンショウウオは、おもに愛知県以西の本州、四国などの山間地域周辺に生息する小型のサンショウウオ。水中で幼生期を過ごし、成長すると陸上で暮らすという。1歳の体長は2センチ程度だが、成体は10~12センチ。寿命は20年以上といわれるが、詳しい生態はわかっていない。

県内では田村山周辺や西浅井町などで確認されているが、田村山では昨年春の少雨で孵化した幼生が全滅したという。除草剤などの農薬などにも弱く、滋賀県版のレッドリストではトップから三番目に「絶滅が危惧される希少

種」に分類されている。

今春は田村山周辺の水路で卵のう 120 個余りを確認し 4 月までに孵化したという。また 7 月下旬に亜成体三百匹弱を確認していた。

[2010 年 12 月 6 日 朝日新聞より](#)

希少種カスミサンショウウオ 保護へ地元が連携 長浜・田村山

長浜市南部の田村山に生息するカスミサンショウウオを守ろうと、長浜バイオ大の齊藤修教授（51）＝分子生物学＝の呼びかけで地元自治会の関係者らが集まり、「田村山生き物ネットワーク」を設立した。来年 1 月に調査報告会を開き、地域住民に貴重な生き物の実態を広く知ってもらおう。

カスミサンショウウオは西日本に分布する小型のサンショウウオ。幼生は水中で暮らし、エラが無くなって成体になると陸上で過ごす。寿命は 20 年以上といわれるが、詳しい生態はわかっていないという。県のレッドリストは希少種に指定している。

齊藤教授は 5 年前に田村山のすその水路で卵を見つけ、観察を続けてきた。生体は 10～12 センチ。山一帯に約 100 匹の生態が生息しているとみられる。毎年 2 月ごろに産卵するが、昨年春は雨が少なかったため山からのわき水が枯れてしまい、孵化した幼生が全滅したという。

今年は地元の協力もあって 2～3 月に約 120 個の卵が確認され、4 月中旬にほぼ孵化した。7 月末には上陸する直前の 276 匹を確認したという。

「貴重な生き物を絶滅から守るためには、地域の理解と協力が不可欠」と齊藤教授。同ネットワークを通じて保護活動を進めながら、遺伝子の解析などで詳しい生態を調べる。

[2010 年 12 月 2 日 滋賀夕刊より](#)

カスミサンショウウオ守れ！ 大学教授や住民らがネットワーク結成

長浜市南部の田村山のふもとに生息する希少種「カスミサンショウウオ」を守ろうと、大学教授や地元住民らが「田村山生き物ネットワーク」を結成した。会長には、発見者の長浜バイオ大・齊藤修教授が就任した。

サンショウウオは体長が最大で 1.5 メートルにもなるオオサンショウウオが有名だが、カスミは小型で体長 12～15 センチほど。県版レッドリストで「希少種」に指定されている。

齊藤教授は以前住んでいた東京でサンショウウオの生態を調査し、2004 年にバイオ大に移ってからは湖北地域を調査。05 年に田村山のふもとの水路でカスミの卵を発見し、生態を研究してきた。

昨春には用水路が枯れたことで、卵からふ化して間もない幼生が全滅しており、齊藤教授は「サンショウウオが生息しているのは自然が豊かな証拠だが、そのまま放置すれば数年で絶滅するかもしれない」と、保護の必要性を訴えている。

ネットワークは地元自治会長や近隣住民、教育、行政関係者らで組織し、副会長に北川貢造・前市教育長、相談役に長浜バイオ大の下西康嗣学長、県立大の仁連孝昭副学長を迎えた。

来月にも報告会を開いて、カスミサンショウウオの生態を PR。また、地元の長浜南小学校の児童に飼育してもらい、関心を深めてもらう。